

この度、僕は8月26日から9月25日までの間、アメリカ合衆国ユタ州にある南ユタ大学への短期語学留学をさせて頂きました。その事後レポートを書くに当たり、大きく分けて三つのことについて報告をしたいと思います。

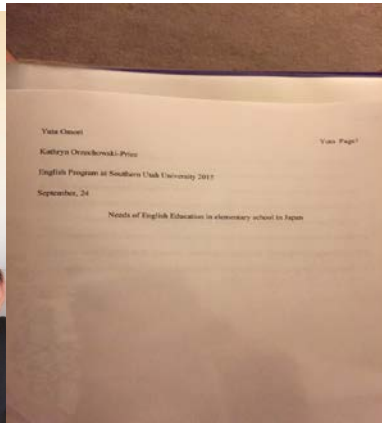
1. 南ユタ大学での授業
2. 南ユタでの生活体験
3. 身についた能力や考え方や、次回の参加者へのコメント

1. 南ユタでの授業

南ユタ大学で僕が受けた **English Program at Southern Utah University 2015** という授業は week1~week4 の間、朝 10 時~午後 2 時半まで毎日授業がありました。その中で、中間プレゼンと最終エッセイを完了させていくという流れです。先生は **Kathryn Orzechowski-Price** という方で、英語を母語としない各国の生徒に英語を教えるプロです。まず、先生についてですが、先生は本当に分かりやすい英語で教えてくださいました。"real quick" "make sense" など定型表現を繰り返し使ったり、決してゆっくり喋るわけではなく、易しい言葉を選びテンポを考えて話してくれるなど、私たち日本人に本当に分かりやすいように伝えてくれました。土曜の研修で郊外に行く時も、その土地の由縁や歴史、豆知識などをたくさん教えていただきました。次に毎日の授業ですが、授業内容は、英文法や英単語のニュアンス、英語教材の多読など英語自体に関するものはもちろん、芸術分野（シェイクスピアが主）、ユタ州の歴史、アメリカの戦争、大学でのスポーツやカウボーイの文化、文書の書き方など...多岐にわたりました。座学だけでなく実地に赴いて実際に体験学習もしました。また、**ESL** という英語を母語としない人たちが集まるクラスに足を運び、ユタ州の歴史について授業をするという授業もありました。どの授業も興味深く、集中して授業に参加、吸収することができました。非常にいい授業内容だったと思います。中間プレゼンでは **Cultural identity** について 10 分間プレゼンをしました。英語力の向上はもちろんですが、自国の文化や自分のアイデンティティについて考えるいい機会ともなりました。最終エッセイでは、「小学校英語教育の必要性」について、7ページほど **APA** フォーマットで書き上げました。これからの「自分の教育に対する考え方や思い」を再確認することができた上に、英語で文書を書き上げるという重要かつ貴重な、これからの糧になるような体験ができたことを嬉しく思います。また、アメリカの自由で生徒の考えを引き出す授業スタイルを生で受けられたことも僕の教育の考え方に大きな影響を与えました。次の留学はそういう経験、観点から、またアメリカの大学に赴きたいとも考えています。



Kat 先生



最終エッセイ



一緒に授業を乗り切った仲間

2. 南ユタでの生活体験

南ユタはとても快適で、治安も良く、遊ぶところも少ないため勉強するには最適な場所でした。大学内はとても広く、清潔で、人も親切で居心地がよかったです。南ユタ大学ではピザや寿司、ハンバーガーなどたくさんの食事が提供され、カフェテリアというバイキングのようなところも利用できました。購買で飲み物を買うだけでもクレジットカードでの支払いで、アメリカのカード社会を身を持って体験してきました。大学内には book store という大学の必需品や、大学のオリジナルグッズを買える店があり、その大学に対する誇りを強く感じ、日本とは違う印象をうけました。大学以外の南ユタの様子に関してですが、飲食店や日用品スーパーが多く、遊ぶ施設や飲み屋などが少なく、必需品を揃え、勉強に集中できる環境であると強く感じました。今回の留学では一か月の間ホームステイをさせていただき、米国の暮らしを直に体験することができました。食やスポーツに対する意識の違いやアメリカでの家族構成、余暇時間の過ごし方など、日本との違いを肌で感じ、その中でも最大限会話や行動ができるように最善を尽くしました。ホストファミリーには心から感謝しています。土曜の研修や日曜日には郊外に出かけ、アメリカの広大な世界を学びました。見るもの全てが新鮮で、出会う人全てが日本とは違う言葉、文化を持っていて、自分の価値観を広げてくれました。アメリカでのすべての出会いに感謝したいです。



ホストファミリー



SUU book store



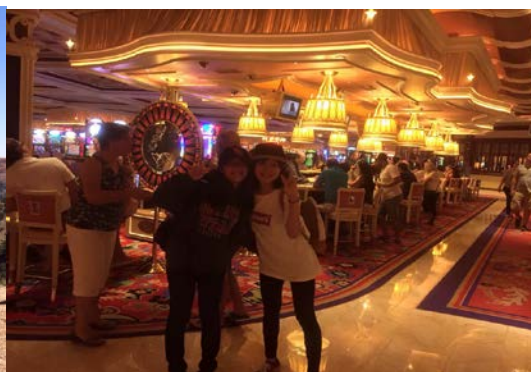
ブライスカanyon

3. 身についた能力や考え方と、次回の参加者へのコメント

今回の留学を通して、身に付いたことは主に3つあります。一つ目は言うまでもなく「英語の諸能力」です。この一か月で、英語を使うという行為に恐れを感じなくなり、英語でコミュニケーションをとれてもとれなくてもいいからとにかく英語を使ってみるという姿勢も同時に身についたと思います。この経験は今のモチベーションに繋がっていると実感できます。二つ目は、「自分でなんでもやってみるという自立の姿勢」です。留学中は、新しいことが多すぎてわからないことだらけでした。その中で自分でとことん調べてみる、わからないときは周りの人に聞いてみる、自分のことは自分で責任をもってやり通すといった姿勢が身についたと思います。最後は「コツコツ消化することの大事さ」です。与えられた課題ややらないといけないことは溜めずにどんどん消化していく大事さを、この留学で学びました。次回、このプログラムの案内が来た時に、もし少しでも「行きたいかも」と思った方がいれば、僕は強くお勧めします。僕自身、行く前は本当に緊張しましたし、大丈夫かと心配になりましたが、そんな心配は着いた初日で吹き飛ばすほどに外の世界というのは広大で、ワクワクと感動に満ちています。「外に一步踏み出してみたい」、「夢を探しに行きたい」、「本気で勉強してみたい」全て立派な動機、一步踏み出す理由です。思い悩む前にまずは外に踏み出してみる、そんな積極性をもって、次回このプログラムに参加する人が現れることを願っています。経済面で力を貸してくれた親、事務的な面で取引を進めてくださった国際課、一緒に頑張りぬいた先輩方、その他出会えたすべての人に感謝をし、僕はこれからも日々夢に向かって邁進していく所存でございます。



ブライスキャニオンと僕



カジノ



修了証明書をもって晴れて留学終了